

# 誰が感染不安・重症化リスクを感じているのか

— 新型コロナウイルス意識調査より —

上席主任研究員 水野 映子

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、人々はさまざまな不安や危機感を抱いている。本稿では、当研究所が2020年4月3～4日、すなわち緊急事態宣言が7都府県に発令される直前に実施した「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」\*<sup>1</sup>をもとに、新型コロナウイルスに自分が感染することの不安や、感染した場合に他者に感染させるリスク、および自分が重症化するリスクを、誰がどの程度感じているかについて分析する。

## <感染することが非常に不安な人は女性20代が多く、男性60代で少ない>

まずは、「自分が感染すること」への不安についてたずねた結果を図表1に示す。

全体では、『不安』（「非常に不安」＋「どちらかといえば不安」）と答えた人の割合が87.1%と9割近くに及んだ。大半の人が感染することに対する不安を感じていることがわかる。

性別にみると、『不安』と答えた割合は男性（83.6%）より女性（90.6%）のほうが高い。さらに性・年代別にみると、その割合が最も高いのは女性50代（93.0%）、最も低いのは男性20代（81.0%）となっている。

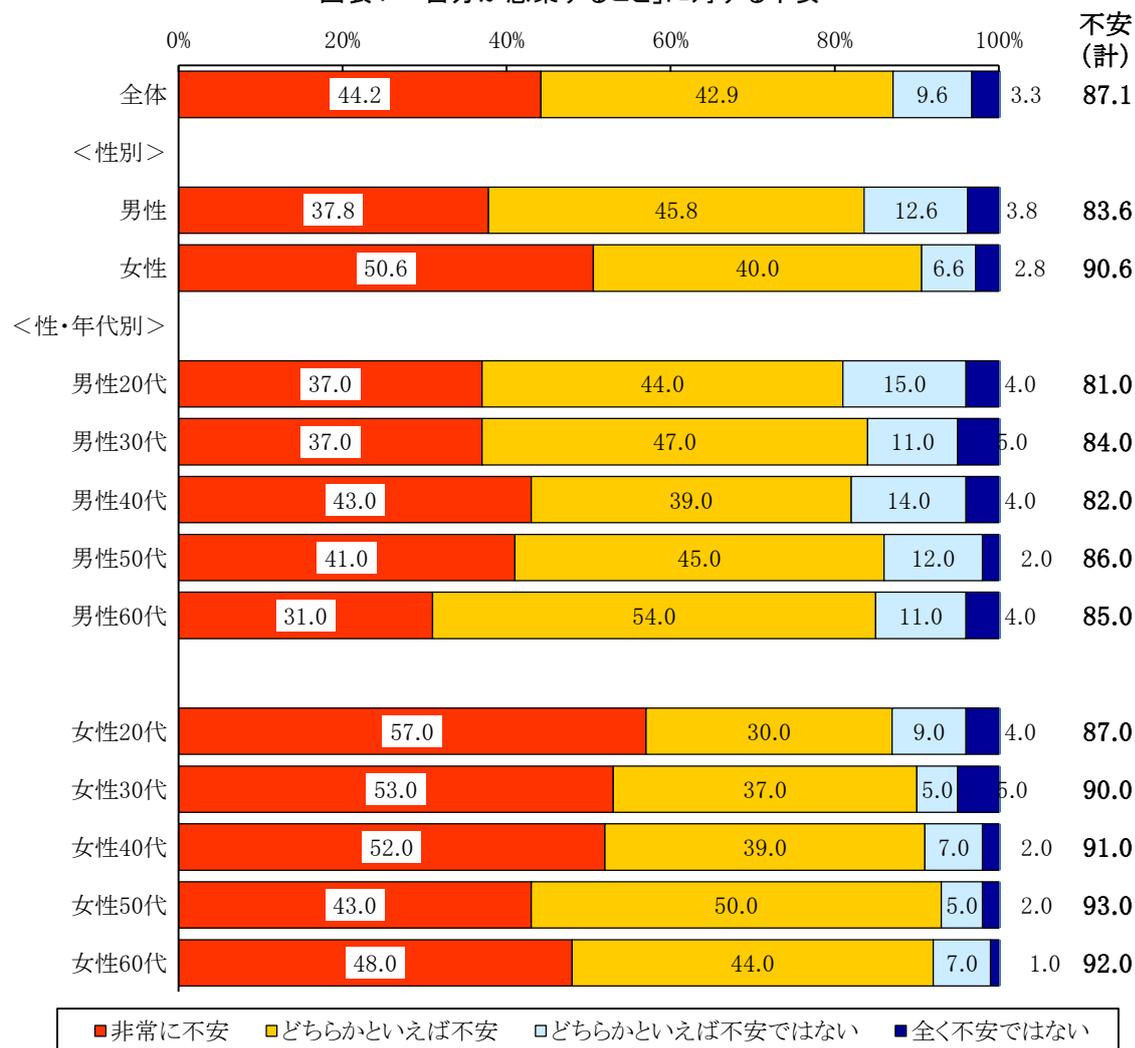
ただし上記の『不安』と答えた割合より「非常に不安」と答えた割合に、性・年代差はより顕著にあらわれている。「非常に不安」の割合が最も高いのは女性20代（57.0%）、最も低いのは男性60代（31.0%）であり、その差は26ポイントも開いている。すなわち、自分が感染することに対して強い不安を抱いている人は、女性20代で最も多く、男性60代で最も少ない。

## <他者への感染リスクを強く感じる人も女性20代が多く、男性60代で少ない>

では、自分が他者に感染させるリスクに対しては、どのような意識を持っているのだろうか。「自分が感染したら、誰かにうつすかもしれない」と思うかどうかたずねた結果を図表2に示す。

全体では、『思う』（「非常にそう思う」＋「まあそう思う」）と答えた割合は85.2%であった。大半の人は自分が感染する不安とともに、他者に感染させるリスクも感じているといえる。

図表1 「自分が感染すること」に対する不安

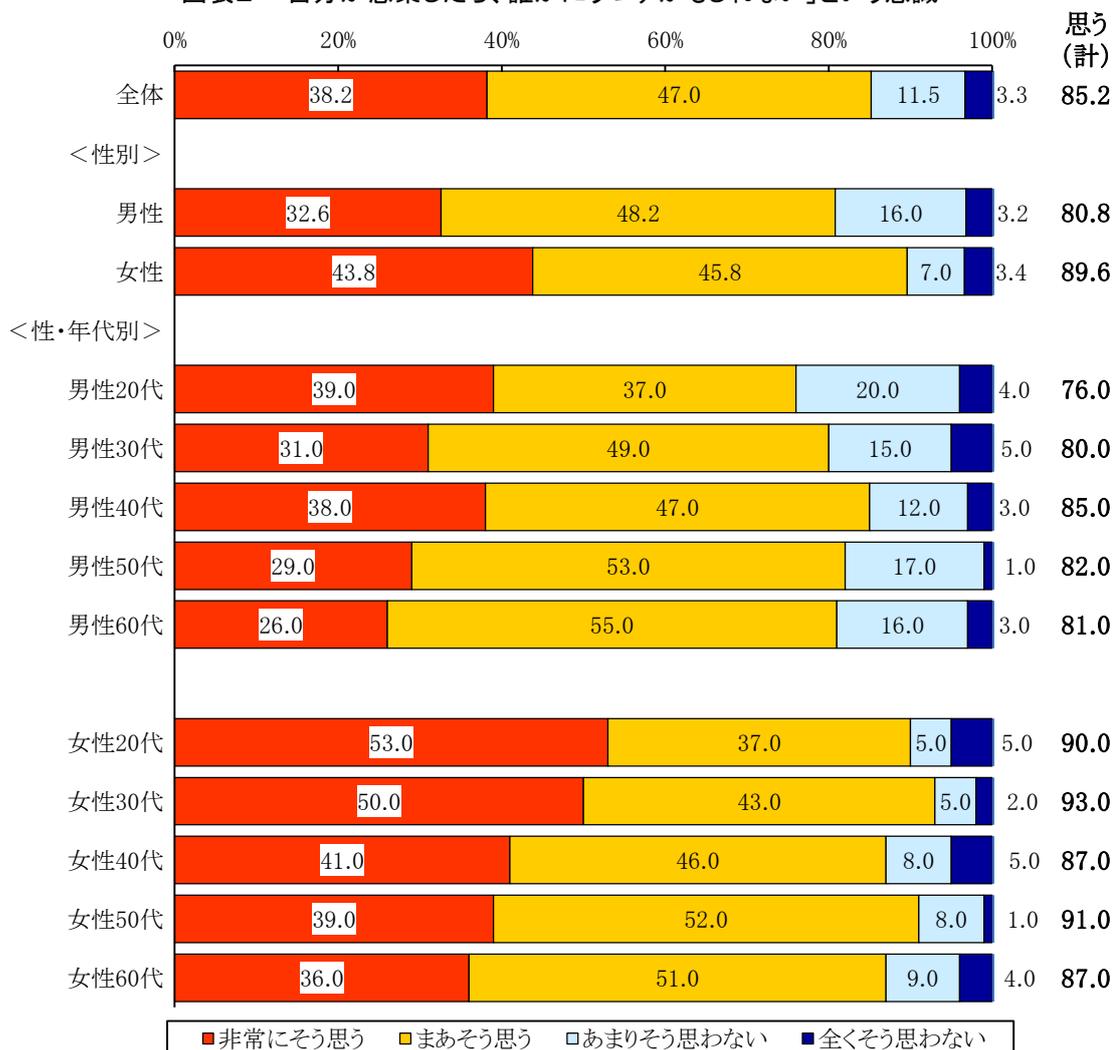


注：調査対象は男女各年代100名、計1,000名。図表2・3も同じ。

性別にみると、『思う』と答えた割合は男性（80.8%）より女性（89.6%）のほうが高い。さらに性・年代別にみると、その割合は女性30代（93.0%）で最も高く、男性20代（76.0%）で最も低い。

ただし、前述の「自分が感染すること」に「非常に不安」と答えた割合と同様、「自分が感染したら、誰かにうつすかもしれない」に「非常にそう思う」と答えた割合においても、性・年代差がより顕著にあらわれている。「非常にそう思う」と答えた割合は男女とも若い世代のほうが高い傾向がみられ、最も高い女性20代（53.0%）では過半数を占める一方、最も低い男性60代ではその半分程度（26.0%）しかない。つまり、自分が感染する不安と同様、他者に感染させるリスクも、それを強く感じる人の割合は女性20代で多く、男性60代で少ない。

図表2 「自分が感染したら、誰かにうつすかもしれない」という意識



### <女性50代以上・男性60代の6割以上は重症化リスクをより感じている>

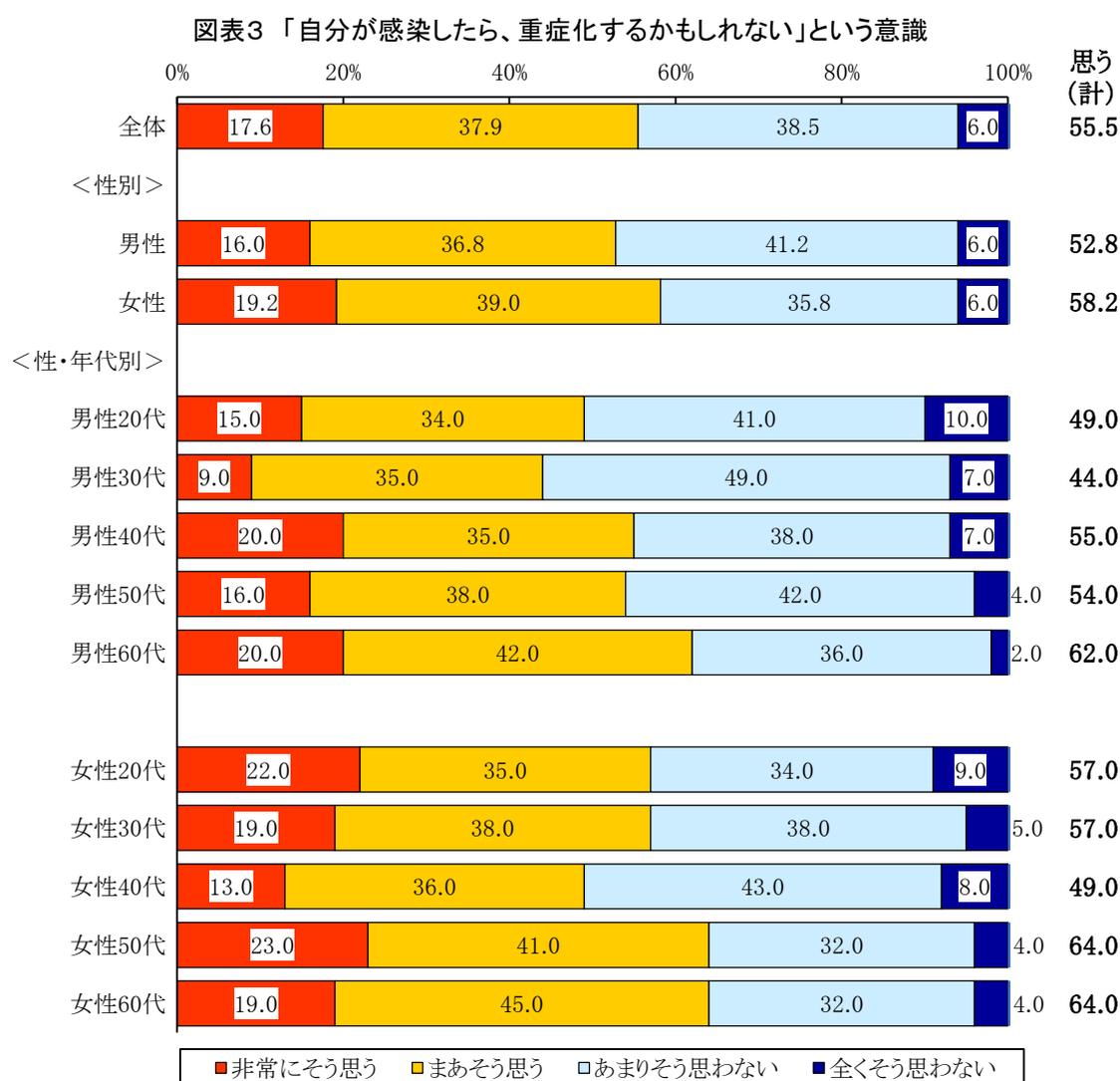
続いて、新型コロナウイルスに「自分が感染したら、重症化するかもしれない」と思うかどうかについてたずねた結果を図表3に示す。

全体では、『思う』（「非常にそう思う」＋「まあそう思う」）と答えた割合が55.5%と半数強を占めた。逆にいえば、半数弱の人は自分が感染しても重症化するリスクがあるとは思っていないことになる。

性別にみると、前述の2項目と同様、「自分が感染したら、重症化するかもしれない」と『思う』割合も、男性（52.8%）に比べて女性（58.2%）のほうが高い。新型コロナウイルス感染症による実際の死亡者は女性より男性のほうが多いことが報告されている\*2が、自分が重症化するかもしれないという意識は男性のほうが薄いことがわかる。

さらに性・年代別にみると、「自分が感染したら、重症化するかもしれない」と『思う』割合は、男性においては60代（62.0%）、女性においては50代と60代（それぞれ64.0%）で最も高い。この結果は、実際に新型コロナウイルス感染症により重症化・死亡した人が高齢層に多い\*<sup>3</sup>と広く認識されていることの影響を受けていると考えられる。

逆に、重症化するかもしれないと思う割合が最も低いのは男性30代（44.0%）、次に男性20代と女性40代（それぞれ49.0%）という比較的若い世代である。ただし、女性20・30代に限ってみれば、その割合（それぞれ57.0%）はさほど低くない。調査時点において、新型コロナウイルス感染症による20・30代の重症者は国内ではわずかし報告されていなかった\*<sup>4</sup>が、その割に若い女性は自分が重症化するかもしれないと思っているといえる。



### <不安・リスク意識を女性ほど持たない男性、強く持つ若い女性>

以上でみたように、自分が新型コロナウイルスに感染することに対して不安を感じている人、および自分が感染したら他者にうつすかもしれないと思っている人は、全体では9割近くに及んだ。また、それぞれに対して「非常に不安」「非常にそう思う」という強い不安やリスク意識を持つ人も4割前後にのぼった。全体としてみれば、大半の人がこれらの不安やリスクを感じているといえる。ただし、女性に比べると男性ではこれらの割合が低かった。

性・年代別に分析した結果では、「非常に不安」「非常にそう思う」と答えた割合に特徴がみられた。これらの割合が最も高かったのは女性20代、次に女性30代、最も低かったのは男性60代であった。つまり、自分が新型コロナウイルスに感染することに対する不安や、他者に感染させるリスクを強く感じる人は、若い女性で多く、男性60代で少ない。

一方、自分が感染した場合に重症化するかもしれないと思う人の割合は、男性60代、女性50代以上では6割を超えた。ただし、女性の20・30代でも自分が重症化している人はそれほど少なくなかった。

自分が新型コロナウイルスに感染することや他者に感染させること、重症化することに対して、女性、中でも若い女性が強い不安やリスクを感じていることは興味深い。性・年代などによる差が、感染拡大を防止するための行動においてどのようにあらわれているかについては追って分析する。

(ライフデザイン研究部 みずの えいこ)

#### 【注釈】

- \*1 調査の方法や結果の概要は、当研究所発行の以下のニュースリリースを参照されたい。  
「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（前編）」  
[http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004\\_01.pdf](http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004_01.pdf)  
「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（後編）」  
[http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004\\_02.pdf](http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004_02.pdf)
- \*2 2020年4月9日午前の内閣官房記者会見における発言などにもとづく。
- \*3 厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症の国内発生動向（2020年4月5日掲載分）」によると、4月4日18時時点における新型コロナウイルスに関連した感染症による重症者70名のうち70代以上が30名、60代が19名、50代が13名、40代が4名、30代が3名、20代が0名、死亡者70名のうち70代以上が61名、60代と50代が各4名、20代～40代では0名であった。
- \*4 出所は\*3と同じ。